

活動紹介：チームを支えることで、母と子の出会いを守る

母性看護専門看護師

名古屋第二赤十字病院 総合周産期母子医療センター
母性看護専門看護師 立松あき（たてまつ あき）

今、日本では30秒に1人の赤ちゃんが生まれています。今後、少なくなる赤ちゃんを、皆で大切に、健康に育てていくことが私たち自身の未来を守ることにもつながります。

私が働くのは、脳梗塞・腎不全などの命に関わる病気や、難病指定のクローン病・脊髄性筋萎縮症をもつ妊産褥婦がやってくる総合周産期母子医療センターです。TVドラマ「コウノドリ」や「透明なゆりかご」の影響で、正常ではないリスクの高い妊娠・出産・育児に少し光があたるようになりました。「リスクの高い母と子」の「出会い」を守るために、助産師・医師だけでなく、薬剤師・社会福祉士・管理栄養士など、多くの国家資格取得者が関わります。皆、たくさんの知識・技術を持ち、母と子の最善を目指して、治療や看護にあたります。しかし、それぞれの専門分野から別々にアプローチを仕掛けるため、チームの歯車がうまく回らないこともあります。



母と子を守るチーム

そんな時こそ、専門看護師！ 専門看護師のミッションは「対象者を支えるチームがより円滑に機能し、活性化できるようサポートする」ことです。「リスクの高い母と子」の「出会い」を守るために、チームの歯車を調整し、時には新しい歯車を追加したり、潤滑油となることが私の役割と考え、日々、意識して取り組んでいます。

<CNSの調整機能>

※写真は被写体の許諾を得て使用しています。